

泥土リサイクル協会

建設汚泥のリサイクル率向上を

10周年記念式典・総会

復興資材の有効活用も促進

(一社)泥土リサイクル協会は8月21日、2015年度定時総会ならびに10周年記念式典を開催した。総会では10年の軌跡を振り返るとともに、従来より行

っている災害廃棄物からの分別土砂の有効活用や、実態調査、建設汚泥のリサイクル率の向上のための普及啓発を進めていくことが述べられた。

木村孟理事長はあいさつで「東日本大震災から4年、現在はインフラの再整備の段階に

なっている一方、気候変動による災害の増加など、建設技術の重要性は増している。産業界全体を視野に入れた活動を続けていきたい」と述べた。

昨年度は国立環境研究所の受託業務として「災害廃棄物から再生された復興資材の有効活用ガイドライン作成業務」を受託。今年も引き続き分別土砂の活用実態調査を行うことも

今年後起り得る大規模災害(東南海沖地震、集中豪雨)への備えとして活用するよう南海トラフ巨大地震中部地域地盤研究委員会に参加するなど啓蒙活動を画している。さらに地域と密着した支援事業として、現在塩釜周辺での浚渫土砂の有効活

用が行われていることから、周辺地域への提案を進めていく。国土省の建設リサイクル推進計画2014では、現在85%のリサイクル率の建設汚泥が、17年には90%以上とするという。同協会はリサイクルを促進するため、事例を整備し、コンサルタントや関連企業に配布するとともに、ホームページ上での事例照会を可能にしている。今後も地域会員向け基

礎講座などを開催していく。同協会が創設された当初36社だった会員企業は62社となった他、これまで3R推進功労者賞、ものづくり連携大賞、近畿リサイクル表彰、愛知環境賞、建設技術表彰、土木学会特別表彰を受賞している。

記念講演では、日本国際賞を受賞した高橋裕東京大学名誉教授が「技術者の誇り」との演題で登壇した。近代日本を作り上げた土木技術者である広井勇、八田与一などのエピソードを紹介し、「日本の土木技術者は高い精神性を持っていた。彼らの気概を見習い、グ

ローバル時代での役割を考えていかなければならない」と述べた。10周年記念式典には、大村秀章愛知県知事が来賓として参加し、「10年間、泥土のリサイクルにまい進し続けてきたことに感謝。リニア中央新幹線工事は多くの汚泥・残土などが発生する。これらを各県内で処理・リサイクルしなければならぬ。少しでも多くリサイクルできるよう協力していきたい」とあいさつした。

木村孟理事長



大村秀章愛知県知事



高橋裕東京大学名誉教授



多くの関係者が集った10周年記念総会